

## 第2回 武蔵野市文化施設の在り方検討委員会 議事要録

○日時	令和元年11月25日（月曜日） 午後7時～9時
○場所	吉祥寺シアター けいこ場
○出席委員	◎小林真理、佐々木岳、富島佐紀、星卓志、○吉川徹、若林朋子、小島麻里（◎委員長、○副委員長）
○傍聴者	3名
○事務局	市民部市民活動推進課長、吉祥寺まちづくり事務所長 他2名

### 1 開会

<資料確認>

### 2 議事

#### (1) まちづくりに関する計画等について

【事務局】 吉祥寺グランドデザインは平成19年の3月に策定され、10年ちょっと経っており、現在改定作業を行っている。

今日は、吉祥寺グランドデザインの概要と、その中で出されている文化施設に対する意見を、簡単に説明させていただく予定。

吉祥寺の来街者特性としては、来街者総数はないが、歩行者通行量の調査があり、一番通行量が多いのは駅北口からサンロードへ向かう歩道上で、日平均でだいたい7万人から8万人が往復しているという状況。

鉄道利用者はJRと京王電鉄合わせて日当たり約43万人の乗客がある。バス利用者は12万人弱。10年ぐらい前との比較で、最近の特徴は、鉄道利用者は微増という状況に対して、バス利用者は3割程度伸びている。

吉祥寺において、過去から戦略的に、自然発生的ではなく仕掛けてきたこととして、「回遊性」という言葉があり、歩いて楽しい街というコンセプトに従ってまちづくりをすすめてきた。

グランドデザインは、策定から10年ちょっと経っており、特に購買に関する傾向は非常に変化している。

吉祥寺に関わる多くのステークホルダーとして様々な関係者による議論を行いながら、将来像をみんなで共有するとい

う目的で、吉祥寺グランドデザインを改定している。視点として、関係主体の役割と責任のもと、まちづくりを推進していくということをテーマにしている。

セントラルエリアはサンロードがある辺り、イーストエリアは本日の会場である吉祥寺シアターの辺りで、パークエリアは井の頭公園側、南口を指している。

セントラルエリアの文化施設としては吉祥寺美術館がある。この吉祥寺という街に、美術館を設置している意義、市民に愛される美術館であるべきだろうという意見がある。現在は商業施設の上階の方に入っているが、1、2階にあるともう少し人が入りやすい、来街者にもご利用いただきたいが、市民の皆様に来ていただける美術館であるべきだろうという意見がある。

イーストエリアには図書館やシアターがあり、図書館につきましては、文化の中心だろうという意見、また図書館やシアターがあることがこのエリアの強みではないかという意見がある。

そのほか、文化施設があることで多様化されているということ、シアターが非常に斬新、公共が設置している意味でなかなか無いのではないかという意見もある。それから、図書館については、このエリアは環境浄化の歴史があり、公の施設を建てることで浄化をしてきたという歴史があり、図書館が設置されている役割を重要ととらえている。

また、もともとライブハウス等々がたくさんあったが、シアターを設置したことで、今もなお営業されているということが街の特色となっているのではないかという意見もあった。

パークエリア、南口については、エリアとして文化、どちらかというところ歴史文化を発信していく場所ではないかというご意見が出ている。

公会堂を再生して文化交流の場として活用するべきだろうという意見も出ている。公会堂の土地は、市有地としては南口エリアでは唯一の種地で、市民の皆さまも今後についての関心がある中で出てきた意見と考えている。

**【委員長】** できれば吉祥寺の地図があった方がよかったかと思う。グランドデザインそのものについての説明を聞くと思っていたが。

【事務局】 議論の時間を確保するために、吉祥寺の来街者の特性などもお伝えをした上で、グランドデザインについて様々な議論がある中で、文化施設の部分に関する部分をお伝えしたところである。

【事務局】 引き続き、三鷹駅北口まちづくりビジョンについて、数字的な部分も含めて説明させていただきたい。なお、武蔵境エリアについては、計画的なものがなく、説明を割愛する。

吉祥寺グランドデザインは街の方の意見を様々に聞きながらコンセプトブック的に作っているが、三鷹駅北口街づくりビジョンについては、行政の職員が中心となって策定している。

このビジョンの対象範囲は、冊子の1ページ下の地図で、黒い点線で囲まれている範囲となる。

三鷹駅北口は、戦前から集積した軍需産業の名残がある地域。横河電機やNTT武蔵野研究開発センターなどの大きい施設が立地している。駅周辺の事業所に2500人以上の従業員が通勤をしている。駅の乗降客数が多くて一定の業務集積が進んでいることに比べて、商業集積は小さな地域と言われている。

広域交通利便性が高く、吉祥寺駅と比べると少ないが、一日約19万人が三鷹駅を利用しており、バス路線も1日に約700本が運行している。三鷹駅まで通勤のために来る人が多いとともに、三鷹駅から都心に通勤され方も多い駅だという特徴がある。

パブリックスペースを活用したにぎわい創出の試みが行われており、駅前の広場を活用したアートイベントやマルシェなどが定期的に行われている。

目指すべき街の姿として、住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街となっており、住む街、働きに来る街という特性が非常に強く、休日に遊びに来て滞在するといったような吉祥寺のような特性はあまりない、という位置付け。したがって、大きく集客を狙うようなものというよりは、近くに住む人や働く人が心地よく過ごすことができる、というコンセプトである。

三鷹駅北口にふさわしい魅力の創出の取り組みとして、パブリックスペースの活用がある。三鷹駅北口のタワーマンション横の道が比較的交通量が少ないので、今年度社会実験として、時間帯で車を止めて、イベントを行った。さらに、知的活動・知的交流の促進ということで、すぐそばに横河電機のサッカーができるグラウンドがあり、そこと連携した取り組みを行っていかうという現状である。

現時点では、このエリアに立地する文化施設である芸能劇場は、駅北口のにぎわい創出になかなか絡めてない状況がある。今後もう少し活用のしがいがあるのかなと考えている。

【委員長】 何かご質問等がございましたらお願いします。

【委員】 長期計画で記載されている新たな将来像とは、どのように設定するのか。より具体的には、武蔵野市の中でこの吉祥寺をどういうふうに拠点として位置づけるかということ。交通結節点となっており、市域を超えた非常に広い商圈を持っていると思うが、広域的な中でどういう意味づけ、戦略性を持つのか。

【事務局】 グランドデザインは期間の定めのないものであったが、策定から10年余が経過して、見直しに取り組んでいるところ。今目標としているのは、30年ぐらい先を見据えた将来像というイメージで議論をしていただいている。

また市の中で3駅圏ある中で、吉祥寺については大規模な商圈を持っているというところが三鷹、境との違いと認識している。吉祥寺については、早くに商業化された街をもう一度力を入れていこうという意味で、吉祥寺グランドデザインを策定している。

交通結節点という意味では、JRと京王、それからバス交通が非常に多く、三鷹駅北口だけで700本ぐらいだが、吉祥寺は北で1,000本と南で800本ぐらいであり、来街者が非常に増えている。

遠方からの来街者も想定はあるが、データによると、近隣区市からいらっしゃる方、また市内からの来街者も非常に多いことを踏まえ、交通アクセスなどについて議論をしている。

【委員】 具体的に、どのような将来像になるのかということを知りたい。それが施設の意味付けに直結する。広域から人を集める、

そういう高次の機能を吉祥寺が持つことを目指すのかどうか。どういう方向でまとめていく予定か。

【事務局】 近隣からの来街が多いということを踏まえると、スムーズに来街できるということが大事。拡充や鉄道についての言及は難しい面もあるため、バス交通について今後改善できる機能についての議論をしているところである。

新たな将来像については、こういった街を目指したいということを最終的に整理されるところと考えている。

【委員】 今どういう方向でまとめているのか、その内容というのを聞きたい。

【副委員長】 全体として、今までの話のトーンでは、今の吉祥寺の位置づけとして、例えば新宿とか立川のように、広域的で大きなデパートがいっぱいあって大量にお客様を集めるという方向は難しいところではある。

実際のところ、百貨店も東急だけなので、そういう非常に中心性も高いようなところよりは、やや、近隣から来るという人が主になるだろうということで、それ以上のものを目指すという設定はしてない。新宿と立川に挟まれる位置で、比較的個性的なお店が多いようなタイプのところ、そういう位置づけと考えている。

【委員】 池袋は池袋の、渋谷は渋谷、上野は上野の、それぞれの戦略がある中で、これから多摩地域で吉祥寺はどういう戦略性で拠点性を持つのか、そこが一番大事。商圈の規模とかもその一要素かもしれない。

【事務局】 吉祥寺は多摩エリアでは大きな商圈と言えるが、そうは言っても限られた範囲である。大規模施設ばかりが集約されている街ではなく、細かな個店とかが魅力の街として発展してきた。スケール感とか街の種類については、今と同様に維持しながら将来に到る、ということです。渋谷を目指すということではない。

【副委員長】 大規模再開発とか巨大なショッピングセンターとかは基本的に想定せず、個店が集まっていて、おもちゃ箱をひっくり返した中に入っているような体験ができる、小さな建物やお店が密集しているような街。今、多少そうでなくなっていることが問題。立川や新宿に対して、吉祥寺は小さな店の個性で勝負したい、そういう戦略。

【委員】 今までに培われて形成された特性を活かしてより魅力的にしていこうということか。文化施設の何をコンセプトとしていくかがこの会議のテーマであって、吉祥寺のコンセプトとして、どれくらいの広がりの人たちに、どういうサービスを提供する拠点なのかということが知りたい。

【副委員長】 吉祥寺グランドデザインで一応共通で持たれているイメージは、吉祥寺が好きな人に来てもらう、セレクトショップ的、そういう雰囲気かと思う。事実上出来上がった街に、当然、なるべく多くの人に来てほしいが、吉祥寺が好きで来てもらうという方向である。

【事務局】 これ以上もっとたくさんの人に来てもらいたいのかという議論はあまりしてないが、ご存じのとおり、土日に来ていただくと非常に歩きにくい状態。来街者を増やそうという方向ではない。

【副委員長】 床面積も、地元ではもう少し再開発して増やしたいというご希望もあるが、それもなかなか難しいというのが正直なところ。

【委員長】 吉祥寺グランドデザインはこの三鷹駅北口街づくりビジョンと違う方法で作られていて、そもそも目的も違う。それはなぜか。

【事務局】 三鷹駅北口街づくりビジョンは行政機関が策定したもの。グランドデザインは行政計画ではなく、民間の取り組みも含まれていて、事業者なども含めた様々な立場の方と一緒に、目指していくべき部分を議論している。

グランドデザインの下には『NEXT-吉祥寺』という推進計画があり、それが行政計画で、三鷹駅北口街づくりビジョンと同列にあたる。

『NEXT-吉祥寺』の上にグランドデザインがあり、グランドデザインは長期計画の下でなくて長期計画とお互いに影響しあう、という位置づけ。みんながこんな街であつたらいいなっていうものを共有しようという目的で作っている。

【副委員長】 吉祥寺の場合、あまりにステークホルダーが多く、行政がこういう計画を立てるということでは、街自体を変えたりないしは維持したりするには不足する。つまり、有力な地主がいて、その上に有力な借地人がいて、そこにかぶさっているものがあってということもあり、全体にステークホルダーが

非常にたくさんいて、みんながそれぞれちょっと方向性が違って、そういう状況になっている。

都市計画ではまち作りビジョンといったものを作るが、これを作っても、これが制約するのは役所だけなので、それだけでは動かない。その上に、もう一つみんなが共有できるような、共通の相場感みたいなものを作って、例えば商工会とか商店会とかあるいは大きな企業さんとか、ある程度方向を揃えて動けるようにということで作っているもの。

吉祥寺の場合は、文化施設のあり方の方向を議論するにあたり、おそらく行政の計画だけではやや足りない。三鷹と違って、つまり行政より有力なステークホルダーが結構たくさんいる。そういう点では皆を巻き込まないといけないところなので、もう1個上に、非常にある意味ふんわりとしたビジョンが必要だ、というおそらく市役所の判断だろう。

【委員】 先日、はなこみちでパネル展をしたのですが、非常に外国の方が多いと感じた。多様性の観点はどう議論されているのか。

【事務局】 インバウンドの方はたくさんいらっしゃっている。一時期よりは減ったかなと感覚的には思うが、その受け入れというのは街でも当然考えている。

しかし、吉祥寺は宿泊施設が、大きなところは東急REIと第一ホテルの二つしかない。客室の数が非常に少ないということで、やはり渋谷、新宿に宿泊されて、吉祥寺には、日帰りで遊びに来るようなイメージ。

インバウンドの方も、その範囲での街の回遊と考える。商業目線では一定のそのサービスとかそういったことは当然普通にやっていると思うが、グランドデザインの中に定義付けるという性質のものではない。

【委員】 多くのステークホルダーがいて、一つの明確なビジョンを作るのは、やりづらい側面はあるのかと思う。例えば、池袋は豊島区が強力に引っ張っていて、渋谷は東急が引っ張っているように、それぞれだれか引っ張る人がいる。吉祥寺は自然な流れで今の状態ができてきて、いろんな人がそれぞれで頑張っていることだが、基本的に今後もそういう感じということか。皆で、これで行こうという共通解のようなものを持つのが難しいのか。

【副委員長】 60代から70代の、引っ張ってきた人という数人の人たちがいて、その人たちはもう現役を退きつつあり、その次の世代にバトンタッチするところ。その、前の世代がそれぞれ頑張っていて、足し算掛け算でこういう状況になっていて、今もうそこは変わってないような感じ。

【事務局】 歴史的に見ても、大規模資本というのは入ってきてない。一つには、主だったところが借地だという開発しづらさもあったのかと想像される。その状況の中で、商店街や大型店とも協力し合って発展してきた街なのだと思う。

【委員長】 例えば、地主さんもやる気になったらどうなるのですか。

【事務局】 地主との関係性は確かに難しい部分があったのかなと思う。通常のまちづくりで考えると、権利者の皆さんと議論しながら進めるというのは、いたってシンプルな進め方と思うが、なかなか進めにくかったということかもしれない。

【副委員長】 ある自治体では、駅前が全部造り酒屋さんの土地。そこでは地主さんがどういうふうにするかってことを考えていて、開発についてもイニシアチブをとっている。

一方、吉祥寺の場合は、基本的には借地人の皆様にお任せしていて、地代も機械的に計算されている。借りている方の自主性にお任せしたいというふうにやっておられる。

公会堂の敷地は借地から外れたところにある。そのため、市が計画できる数少ない土地というわけで、非常に貴重な敷地と言えるだろう。

## (2) 他市及び本市の文化施設の状況について

【事務局】 資料2と3が、26市と近隣2区の比較表である。資料3は、100席以上あるホールを各市に調査しまとめた資料で、ホールごとの詳細を記載した。資料3から、基本的な情報だけを抜き出して資料2を作成し、人口規模などの基本情報と合わせて記載した。

資料5は武蔵野文化事業団に管理をしている文化施設の情報で、資料4が位置関係を地図にプロットしたもの。武蔵野市の地図に振っている数字と資料5の施設名の前に振っている数字がリンクしている。

松露庵について。最寄りの駅は武蔵境で徒歩15分。駅から少し離れた場所である。利用状況は、資料記載のとおりで、茶道教室や寄席が行われている。

武蔵野スイングホールについて。武蔵境駅前の再開発ビルの中に入っているホールで、機能としては180席のホールのほか、会議室、レセプションホールがある。利用状況については表のとおり。グラフの見方として、棒グラフが利用件数で、折れ線グラフが利用率。目的別では室内楽・器楽での利用が最も多い。文化事業団の事業としてはスイング寄席と、比較的ジャズなどの公演が多く行われています。その他の事業というところで、武蔵野文化事業団の主催ではなく、地域の方に使用していただいている事業を記載している。

かたらいの道市民スペースについて。三鷹駅が最寄りで北口徒歩約5分の立地。駅前の大型マンションの開発の際に市に提供された公共スペースを会議室として使っているものである。利用状況については資料の通りで、基本的な会議室として、あるいは小規模な展示などで利用されている。

武蔵野芸能劇場について。三鷹駅北口徒歩1分の立地。機能としては、156席の小劇場、展示などで使用できる小ホールの二つの機能がある施設。設立の経緯として、もともと結城座という都の無形文化財に指定されている人形劇を想定して作られた施設である。利用状況としては、演劇での利用が一番多いという現状。

市民文化会館について。三鷹駅が最寄りだが、徒歩13分、少し駅から距離のある場所である。多目的の大ホールと音楽専用の小ホールの2つのホールがある。昭和59年に開館したが、平成28年度に1年間休館し、リニューアルのための改修工事を行った。指定管理者である武蔵野文化事業団がメインで事業を行っている施設で、多くの事業で使っている。主催事業については資料に記載の通り、クラシックを中心に様々なことに取り組んでいる。

吉祥寺美術館について。吉祥寺駅徒歩3分のところにある商業施設の7階に入っている。企画展示室、2つの記念室のほか、ミュージアムショップ、音楽室が併設されている。資料に概要を記載した所蔵作品も含めて、年間4、5本の企画展を行っている。

吉祥寺シアターについて。吉祥寺駅から徒歩5分の施設。機能としては189席の劇場とけいこ場があり、利用状況としては、劇場は演劇、けいこ場は演劇やダンスの練習が主である。

その他の事業として、主催ではなく戦略的に提携等の形で劇団を呼んで公演を行う形を多くとっている。

武蔵野公会堂について。吉祥寺駅南口から徒歩2分の位置にあり、350席のホールのほか会議室、和室を併設している施設である。ホールの主な利用状況として、室内楽・器楽やピアノの発表等と、講演会・大会等の利用が同程度の件数で利用されている。文化事業が指定管理者の主催事業で寄席を実施しているが、そのほかの事業としては、音楽祭ですとかアニメワンダーランド等でもまちの方に使用していただいている。

**【委員長】** 施設ごとのレビューについては次回以降、資料をさらに追加しながら議論していく予定である。

今回はその前段として、市全体を俯瞰して施設の配置の状況や現状をどのように機能しているかということ意見を交換したい。どのような印象を持たれたかということでも良い。

**【事務局】** 武蔵野市として、何かビジョンをもって戦略的に文化施設を配置してきたわけではない。武蔵野市としてはようやく方針ができたところであって、初めて施設について検証しているという状況である。

例えば市の規模に対して施設の数が過剰なのかどうかとか、いやいや、活用するメリットがあるだろうとか、先生方から、それぞれの分野で今までの関わりのあった地域などの話や、アドバイスのものをいただきながら考えていきたい。

例えば、資料2として、近隣市区等と比較した資料を作成している。市の面積、人口、駅数などに比して、武蔵野市はかなり施設数が多いということが理解できる。

また、資料3には、指定管理、又は館の管理運営にかかる経費の合計を比較しており、武蔵野市の場合、ホールを有する施設の指定管理等々で合計6億強となっている。

こういった資料を踏まえて、これが果たして非常に過剰スペックなのか否かなど、皆様からご意見をいただきたい。

**【委員】** 資料5の利用件数はどのように出しているのか。

**【事務局】** 施設の利用時間の区分が9時から12時、13時から17時といった形で1日2区分ないし3区分となっている。その1区分を1件としており、例えば市民文化会館で1日ホールを1日使用すると3件となる。

【委員】 保守等の休館はあると思うが、単純に言うと、365×3が分母ということ。

【委員】 レビューを考えるときに、誰の立場でのコメントかということがある。武蔵野市以外から見ていて非常によくやっているという評価もある。外から見た文化関係者からの視点でのレビュー、住んでいる人・市民としてのレビュー、街で商売をしていて一緒に土地を盛り上げたいと思っている人の視点でのレビューは異なるだろう。どういった立場から、どのように評価していくのか、その視点を議論した方が良い。

先ほどのグランドデザインとも大いに関わるが、過剰供給なのかどうかも、どういう街にしていきたいかと照らし合わせた結果、答えが出てくる。例えば非常に小さな自治体でも、我が街は文化を推していく、文化に集中的に経営資源を投資して、とにかくある程度予算をかけて施設を守っていくという方針なのであれば、複数多種施設の所有も正しい選択ということになる。どういう街にしていきたいかの方針によって、文化施設の意味合いが変わって、大事なことは、どのような街にしていきたいかというグランドデザインにいかに関わらせて文化施設のあり方を考えていくか。

吉祥寺グランドデザインと三鷹駅北口街づくりビジョンにおいて、それぞれ文化の切り口でどのような街にしていきたいかが見えてくると、それに照らして意見が出せる。

ということ踏まえた上での話だが、外から見たときの武蔵野市の文化施設の運用は非常に高く評価されている。かなり早くから、公立の文化施設として非常にきめ細やかに運用して、来場者のニーズに応えるものをよくやっている、という評価である。

ただそれは、小さな施設も含めて全ての文化施設の評価かということ、武蔵野市民文化会館や吉祥寺シアターの評価である。松露庵やかたらいの道市民スペースなどは、市外からの評価というのはおそらくあまりないので、そのあたりは地元目線でレビューした方がいいと感じる。

【副委員長】 公共施設配置の観点からすると、床が多いという印象はある。

でもまさに先ほど他委員から発言があった通り、多くてもいいという考え方もある。例えば、石垣島は非常に図書館にお金をかけて、とても立派な図書館がある。多摩ニュータウン

ンで文庫活動をした先生が石垣に帰って、その方とか何人もが走り回って街の真ん中に図書館を建てて、新聞とかでもやはりまちの誇りは図書館だという取り上げられ方もした。運用もなかなか非常に素晴らしく、結構早い時期から子どもが騒いでもいいスペースをガラスの箱で作っておくなど、非常に熱心に取り組んでいる。そういうことをやってもいい。

他の街では、公会堂という名の建物でいろんな音楽イベントが行われるが、武蔵野公会堂の場合、音楽イベントとかはそれほど多くなくて、講演会とかが多い。そうすると、武蔵野公会堂というのが本当に公会堂的に使われている。つまり、お話のイベントや音楽というのがおおむねバランスよく入っている。他の施設は全部それぞれ特別目的のために使われていて、例えば市民文化会館のこのコンテンツの並び方は、普通の街の公会堂のコンテンツとは決定的に違う。吉祥寺シアターはそもそも全く類例が少ない。芸能劇場はそれが抜けてしまったので中途半端になっているが、元々は特定目的のために作られている。スイングホールもこの利用状況を見ると特定目的のように思える。

特定目的のために作られた施設を、戦略としてどこまでやるつもりなのかということは、市の戦略、地域の戦略として何をやりたいということに関係している。それが先ほどの評価する観点が必要ということだろう。通常のいわゆる集会機能を持っている部分と、文化のやや先端的なもの、武蔵野市の個性を追求するような、ほかにないようなコンテンツを生み出すための施設という、大きくその二つの機能があって、それぞれにどう考えるのかという整理をした方が良さだろう。

さっきのグランドデザイン絡みの話でいうと、公会堂は吉祥寺の文化発信の役に立っているのか、というと、実は普通の公会堂だからあんまり特徴はないのかもしれない。公会堂は街に必ず必要なのだけでも、この街の特徴という感じではない。元々、他の施設がなかったときには、吉祥寺から文化が発信されていたと思うが、音楽のすごく素晴らしいホールが後で作られて、公会堂に残っているコンテンツは比較的多機能のものなのかもしれない。吉祥寺シアターはものすごくとんがっていて、吉祥寺の、特にイーストエリアの戦略にあっている。スイングは実は武蔵境と言いながらもそのエリア

は広い。このコンテンツだと、おそらく武蔵野市民の枠組みにとどまらない。市民文化会館も非常に広く、広い集客、全国に通用するようなコンテンツを持っているのではないか。

公会堂はコンテンツが別の施設に出て行ってしまったので、まさに市民のための集会施設として機能している。文化施設というより、実は集会施設なのかもしれない。位置づけの違いがこの中にもあるので、その上でどちらの位置づけにどれだけの量の床を提供するかとか、どこにどれだけの学芸員とかそういう人たちを入れるのかという、そういう戦略とセットにして考えていく必要があるのではないか。

【委員】 今日いただいた数字だけ見ると、稼働率がすごく高いので、その限りにおいては、ずいぶん使われていると思う。しかし、この委員会の議論は、文化振興基本方針で出されたコンセプトに照らして、この文化施設を評価し、今後どうしていくかということだと思う。そうすると、文化振興基本方針は芸術文化だといっていて、武蔵野市は芸術文化をまず振興あるいは高めていくことによって、そこから生活文化とか都市文化へ波及していく、という考え方かと思う。

だから芸術文化の視点で施設の利用状況を見るということになる。私の理解では、芸術分野というと、一流のプロのものを見てもらう、見せるということと、市民の皆さんが日ごろ活動していることを発表する、大きく分けるとそういった側面があると思う。まずその二つの側面で利用状況を知りたい。もう一つはカテゴリーとして、ステージ芸術系と、その他講演とか会議、会社説明会とか、その区分で知りたい。

それがわかると、文化振興基本方針から見て今どういう状況かということはかなり見えるのではないか。じゃあどこを延ばそうとか、そのためにどうするかといったことが議論できてくるから、できるだけそういう資料をお願いしたい。

【委員】 改めて、文化施設を地図に落としてみると、中央線の沿線に施設が駅ごとにあるということがわかる。これまで、武蔵野市は文化施設の配置計画がない中で施設を建ててきたが、結果的に三駅圏の考え方でやってきているというのが非常によく分かる。

また、一流のものを見せる施設というのは、市民文化会館が市全体として一つあって、広域的な部分での機能、役割を果たしているのかと思う。

それから武蔵境、三鷹、吉祥寺の各駅にスイング、芸能劇場、公会堂と、それぞれ役割もあるが、感覚的なものだが、市民の発表の場としても使われている役割も持つ施設なのではないかと思う。

一方吉祥寺には、シアターについては、別の委員がおっしゃったように、事業として特別なものを行っている。美術館もそうですが。そういったことが地図で落ちていて分かったというところ。

先ほど借地のことが少し出たので、文化施設の中で、市だけが持っている土地に建っている施設というのが、吉祥寺シアター、公会堂、それから芸能劇場。ビル等に入っている施設が、スイングホールと美術館。文化会館の敷地は約3分の1を市が所有している状況。

【委員】 それぞれの施設に関して、やはり文化的な側面以外に、集会的な形で使われているという現状がかなりあると思っている。

例えば、かたらいの道市民スペースは、展示などでも使われているので文化的なことでも全く使われてないということではないが、やはり集会的な側面が強い。あるいは、公会堂に関しては、1階にホール機能があるが、それ以外のフロアは、いろんな集会的な機能を有している。文化施設だけで切り分けていくのが、難しい部分があるかもしれない。

市内にはコミュニティセンターという集会施設があるので、それらも踏まえた形でないと、見きれない部分が出てくると感じている。

あと施設の配置との関係で、特に駅前に立地するスイング、芸能劇場、公会堂に関しては、やはり貸館的な側面が非常に強い。また、そこで行っている文化事業団主催事業に関しては、市民文化会館にいる事業担当のスタッフが出張って行って実施していて、事業を提供する場になっており、それがきちんと三駅に配置がされていると感じる。

【委員】 武蔵野市はホールなどいろいろあって、すごく恵まれている市と思っている。その稼働率が結構高いことも初めて知って驚いた。この資料だけでは不明だが、同じ人が何回も使って

いるのではないかと、というところが気になる。貸し館的に使っている人は、よく知っていて、何度も何度も使っているのではないかとということもある。知っている人だけでなく、多くの方が使える、そういう施設という視点も必要と思う。

あとは、利用目的が特化されていて特徴がある施設もあるが、武蔵野公会堂だとかスイングホールなど会議とか集会で使われているところで、結構重なっている部分があるのかなと思うので、その点については統合とかそういう施設の使い方として考える必要があると思う。

**【委員長】** 吉祥寺シアターとちょっと重なるのは三鷹の芸術センターである。三鷹の芸術センターも武蔵野市の文化会館も両方とも三鷹駅から歩いて20分の距離で、だからあんまり重ならないという状況もある。三鷹の方は割と若手の劇団を積極的に応援するプログラムを採っている。吉祥寺シアターも貸館で、優れたものを選んで貸館にしている。

クラシックに力を入れているホールというと、荻窪にある杉並公会堂と、武蔵小金井にある小金井交流センター。杉並公会堂は京王設備がPFIで入っていて、小金井交流センターはサントリーパブリシティサービスと野村不動産がやっているが、ジャンルは重なっているところがある。そのような配置になっていて、文化会館が駅から20分のところで一流のものをやって、今観客が来てくれているのは、ある意味で文化事業団の優れた企画力によるものである。本当は中距離のところからの集客や何かを考えるのだとすると、20分は相当遠い場所と言える。

**【委員長】** 残りの時間で、活かしていくべき強みとか改善すべき課題などがあるとしたら今の段階で何なのかということと、武蔵野市は駅圏で施設を配置してきていて、市全域、駅圏、コミュニティレベルという三層構造で考えていくときに、この文化施設の配置をどうみるかみたいところでご意見を伺いたい。

**【委員】** 今回の検討に上がっている施設を見ると、私にとっては、武蔵野市の施設だとすぐ思い浮かぶ施設と、文化振興基本方針の委員になって初めて知った施設とがある。

おそらく利用目的によると思うが、外に向けて市の個性を体現しているような特徴ある施設は思い浮かぶが、全てがそ

うではない。それ以外のところは集会施設だったりするので、特徴が必要なのかという話もあると思う。

【委員】 存在を知らなかったのはどの施設か。

【委員】 例えば、かたらいの道市民スペースは、文化振興基本方針の委員になって初めて知った。そういう施設は、武蔵野市の特徴や個性を訴えるようなものではないと思う。

なので、施設にどのような個性や役割を持たせていくのかを考えるにあたっては、市の個性や特徴を体現するものと、別の役割を持つ施設を分けて、それぞれの指標で評価していく必要があると感じる。

【副委員長】 ちょっとイレギュラーな発言をすると、三駅の駅前になきゃいけないっていうことは全くないと思う。本当はデータがあるといいのだが、コミュニティセンターの利用のデータとして、結構よく分析されている例が福岡市である。貸室については、近くのコミセンに行くわけではないというデータがある。

確かに近くの施設を選ぶ層はいる。でもそういった層は、実は貸室ではなく、ラウンジとかを使っている。貸室を利用する場合は、抽選で当たったところを使っていて、遠ければ車で行く。

駅前に施設を設置することに、市民の交通上意味があるとすると、バスがあるから。でもそれなら1回電車に乗ってもらっても困らない。まちづくりの立場からすると3駅前にあるというのはいいなと思うが、その必要性に、あまり根拠はなくて、みんなが意思決定のときに納得するからというバランスかもしれない。利用者の利便性の観点での必要性には少々疑問がある。

おそらく地元の人、市民の発表会とか集会のための機能は、場所を選ばない。ものすごく広域からお客さんがセレクトショップみたいに集まってくる施設は、市民文化会館と吉祥寺シアターが該当して、2段階目。その下にコミセンがあって、施設の種類としては3段階くらいだろう。

吉祥寺の強みはという話だと、コミセンまで全部串刺しで眺めてみると、会議室などは山のようにあるのではないかと感じる。利用率が高いということについても、極端に考える

と、話半分で聞いていただきたいが、値段が安ければ利用率は高くなる。

それは本当に、市民のためになっているのか。例えば私の知っている先生が、「大きな文化ホールのある自治体があるのですが、実は利用という観点から見ると、ほとんど市民以外の利用なのです。市の持っている意味がどこにあるかってことを考え直してみないといけませんよ」という問題提起をしている。

利用率が高いというのは先ほどの話と裏返しで、収入と支出の関係を見てみると、資料3の収入と支出のところに載っているデータは、建物の減価償却とか載っていないから、実はミスリーディングな資料になりかねない。採算性を見る必要はないけれども、でもどの程度の負担でどういうふうな埋まり方をしているのかを考えないと、この件については議論できない。

それを踏まえて、最初の強みという話になると、他にはないコンテンツを提供して全国レベルで通用しますというものをいくつか持っています、というのは戦略として合理的だから、それはそれで押せるだろう。

集会施設として使われている部分については、市民のためにすごくディスカウントしたお値段で床を提供しているということ。それは民主主義社会において、集まる機能というのが絶対必要だからそのためにやっている。みんなが集まって何か自由にやるということを支えることが行政の役割という考えもある。その部分にどれだけ市が資本を投入するつもりがあるのかということ。

その二つのことを考えると、三つの駅前がないといけないという議論は、三つの駅前にあった方が集会施設とかを提供するために合理的だと言えそうであろうし、そうでなければこだわる必要はない。

駅から20分間のところに市民文化会館があって、そこで素晴らしい音楽コンテンツを提供しているけど、やや交通的に辛いということも確かにある。でもこのぐらいの距離の施設は他にもある。好きな人はバス1本乗ってでも来るので、その分安くこういう施設が作れてよかったと割り切って考えるべきかもしれない。

武蔵小金井は再開発で巨大なものを作った。吉祥寺の駅前もそれやろうと思えばできると思うが、あそこにあれがあるのでその戦略を吉祥寺でやる、つまり八王子のオリンパスホールとか武蔵小金井みたいなそういう戦略をとる必要があるのかということとは、別かと思う。

【委員】 教育委員会所管の生涯学習施設も一緒に見たい。武蔵境のプレイスとか、他にもあるだろう。それは実際かなり同じような機能を持っている、市民活動としては。その配置でみたらどうなのか。一緒に見る必要があるのではないかと思う。

コンテンツが良ければ人は来る。見せる方の戦略性がある必要がある。もちろん基本は市民のためであって、広域から人が集まるっていうのは付随的なものかもしれないが。どういうレベルのものを、どういうコンテンツで提供するのか。施設が主催のものもあるが、民間のコンテンツ提供側をどう引っ張ってくるかも大事。

集会やサークル系の市民が利用する市民の主体的な活動で集まることはとても重要で、そういう場が提供されることは重要である。当然、立地、場所ということは重要で、また地域コミュニティの人たちが集まる場所は近くにあった方が良いのは当然である。けれども、テーマコミュニティみたいなものは、いろんな人がいろんなところから集まってくるので、それはアクセスが良いところで提供する方がいいと思う。

その辺の仕分けというか、利用実態がいびつになっていないかどうかを見る必要がある。先ほど、独占的に使用されているのではという話もあったが、ちゃんと抽選で一生懸命やっていて、結果的に独占的になっているのかもしれない。やはり平等にそういう場が提供されているか、市民のいろんなそのコミュニティに対してということが大事だと。

【委員】 どのぐらい効力があるかという話はあるが、市政アンケートとして、全世帯にアンケートを配って5000件ぐらいの回答がある。その中で評価できるものとして、ここ何年も、文化施設とか文化とかが1位になっている。市民の皆様はやはりこういった施設の配置等、コミセンも含めて、非常に豊かさに気が付いているのではないかなと実感している。

今後の議論になると思うが、今は、少し遠いところから足を運んでいただいているが、質の高いコンテンツをどのように確保していくかを含めて考えなければいけない。

【委員】 武蔵野市のコミュニティセンターは無料利用ができる施設であって、こちらの文化施設は有償となっている。廉価であっても有償であるものがかなり使われているというのは一定の需要があるということではないか。

教育委員会施設について、三駅には、武蔵野プレイスを含めて、それぞれ図書館がある。武蔵境エリアについては、プレイスに一定の貸しスペースがあり、市民会館もある。スイングホールはレセプションホールとして機能しているが、集会機能としては、それらの施設が複合的に機能して、それぞれの利用が図られたのかなと思っている。

武蔵野市は土地が平坦なので、かなり自転車利用が多いというのを非常に感じる。文化会館はあの位置にあるので、かなり広い自転車駐輪場を有しており、コンサートによっては一杯になっていることもあり、利用者は、市内、あるいはかなり近隣から移動されてきているという事例もあるかと思う。

【委員長】 いずれにしてもコミセンとか生涯学習施設も、次の会議のときの資料として提出していただきたい。

【委員】 市民文化会館に世界的なアーティストが来て、安い値段で見れたりというのは、結構すごく市民として良いところだと思う。あれだけ遠くても結構来ていると思うので、その部分は強みだと思う。

活用の仕方については別としても、そういう施設がたくさんあるというのもある意味強み。コミセンを含めて市民活動を支えるような場があるというのは結構強みだと思う。コミセンは特徴的だし、使われているし、気軽に使えるというところで、コミセンの話は検討範囲に入っていないかもしれないが、武蔵野市は市民活動が活発だと思うので、その部分は武蔵野市らしいと思える。

ただ文化振興ということで考えると、その活用というところで、いろいろこれだけ施設があるが、交流だとか、人が集うだとか、そういった部分はまだ出来るのではないかということ強く思っている。

【委員長】 良い企画であれば、遠くても人が来るのは分かる。分かっているが、企画し続けることができるかという問題がやっぱりある。この委員会で話す話ではないかもしれないが、そういう問題も武蔵野市が抱えているということは、言っておきたいと思う。

【委員】 文化振興基本方針の巻末資料に、市民アンケート調査の結果が出ていて、コミュニティセンターの場所とか、利用したことがある人の割合の資料が掲載されている。これも参考になると思うので、共有までに。

【副委員長】 遠くても人が来るという話はいいと思う。一方で、都市計画とかまちづくりの面から言うと、来た人がバスに乗ってそのまま駅まで来て帰ってしまうので、本当はやっぱり駅の徒歩圏に、そういう外から来てちょっとなんか普段と違ったことを楽しめる施設があって、徒歩圏で駅まで戻って来て、じゃあちょっと一杯飲んで帰ろうか、みたいな相乗効果があった方が、まちづくりとしてはありがたい。吉祥寺シアターはそういう点ではありがたい。

### 3 事務連絡

【事務局】 皆様ありがとうございます。我々はこの施設を考えていく中で、武蔵野市は比較的早くに施設を作ってきたため、更新を考えていかなければならない中で、これからの財政状況を考えると、あまり充実させていくのは難しいのではないかと、というのが全体的なトーンです。

今まで武蔵野市は文化でのまちづくりを打ち出したことがない中で、我々も今、これからは文化で、というのはなかなか打ち出しにくいところ。そういう施設を少し縮小してなきゃいけないのかなという全体的なトーンですとか、今まで文化で押していったことがなかった武蔵野市という背景がある中で、施設をどんな視点で見ていったらいいのか迷っているところがございます。

そういう中で、今日いろいろと発言いただきましたので、次回まで少しお時間をいただいて、次の議論に入っていきたいと思います。今日いただいたところを少し我々の方も咀嚼しながら、進めていきたいと考えています。

次回は1月の後半ぐらいに設定させていただいて、少し個々の施設のレビュー的なものに入っていければと思っています。

#### 4 閉会